

当館の収蔵資料の中に「^{いなむらたんげん}稲村坦元コレクション」と呼ばれている一群があります。この資料群は、仏教史学者・文化財保護推進者で埼玉県文化財行政にも多大な功績を残した故稲村坦元氏（明治26年（1893）～昭和63年（1988））から寄贈していただいたもので、考古資料や典籍のほか、各地の文化財を採訪した際に写し取った金工品や石塔類の拓本や寺社の版木から刷りだした刷物などがあります。これらのものの中には現在所在不明のものもあるため、大変貴重な資料です。

右の拓本は、その中の一点（SPM1971-001-0181）で、同氏の編集による『武蔵史料銘記集』（昭和41年（1966）刊行）にも掲載されている^{わにぐち}鱧口（社殿の正面などに吊り下げて参拝者がたたいて音を出す^{ほんおんぐ}梵音具）です。同書には「熊野三所権現御寶前鱧口一ヶ 武州比企郡唐子郷總徳寺 明德五年卯月十五日」とあり、明德5年（1394）に比企郡^{からごごう}唐子郷（現東松山市）の^{そうとくじ}總徳寺という寺院にある熊野三所権現に懸けられていたものとされています。

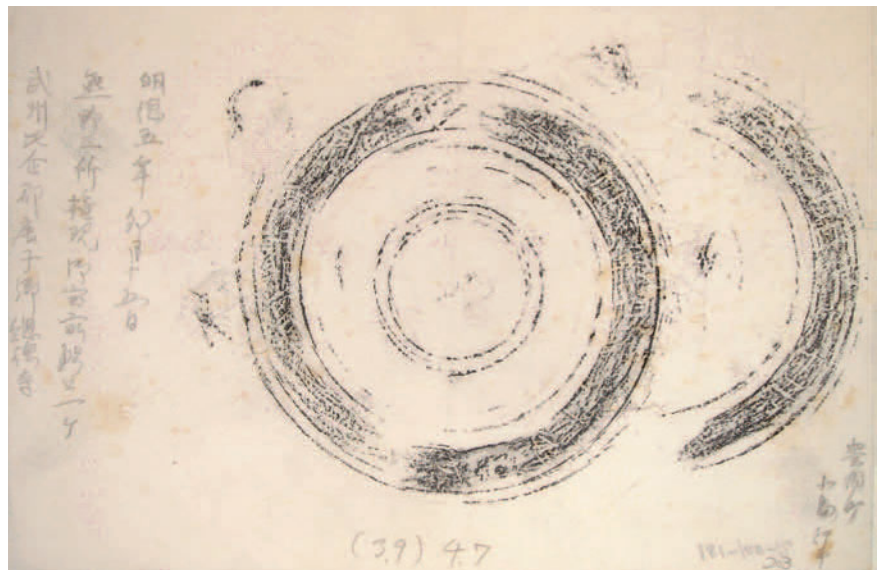
その後、平成元年（1989）に刊行された『新編埼玉県史』にも掲載されましたが、そこでは「総徳寺」とあり、唐子郷から東松山市であるとするものの総徳寺熊野三所権現は未詳としています。

江戸時代の地誌『新編武蔵風土記稿』にも記載ありません。

この鱧口については、現物を歴史資料館（現嵐山史跡の博物館）で展示した事がありました（企画展「ささげられた祈り」平成5年（1993）に開催）。その際に銘文を確かめたところ、銘文中の「總」の文字に違和感を感じました。拓本でははっきりしませんが、「糸ヘン」が確認できませんので、文字としては「息」となります。また、下の

「心」の部分も直線的に彫られており、は「奥」のくずし方によく似ています。さらに「奥」とくずし方が酷似している文字に「興」という文字があり、この文字である可能性が最も高く、この寺院名称は「興徳寺」であると考えられます。「コウトクジ」と聞くとすぐに思い出されるのが嵐山^{あおくら}町大蔵に現存する「向徳寺」です。「向徳寺」は^{じしめう}時宗寺院で宝治3年（1249）の紀年銘がある善光寺式の阿弥陀三尊像（国重要文化財）が有名です。この向徳寺が中世には唐子郷にあったことが伝えられています。さらに、境内に熊野社が祀られていたことは『新編武蔵風土記稿』からも確認でき、この鱧口の銘文に合致します。これらのことからこの鱧口は、興徳寺（現向徳寺）の熊野社にあった鱧口であるとの結論を得ることができます。展示した当時からこの鱧口が向徳寺のものではないかと思っはいましたが、稲村坦元氏という斯界の大家が編集した活字に間違いはないだろうという呪縛に捕らわれ、図録等に「興徳寺」と表記できなかったことを今でも後悔しています。「百聞は一見にしかず」、既存の活字にとらわれず、現物を精査して行くことの重要性を痛感する次第です。

（常設展示担当 渡 政和）



皆さんが毎日手にするお箸やお椀は、どんな素材でできていますか。木、竹、それともプラスチックでしょうか。現在、木製の道具は減りつつあります。身近な木製の製品といえば、椀・家具・住宅の骨組みでしょうか。生活スタイルが変化したことにより必要がなくなった木製の道具もあります。また、プラスチックなど他の素材に替わったことでも、身近な素材ではなくなっているでしょう。

当館では、埼玉県で出土したさまざまな木の道具を展示しています。縄文時代の弓・漆器・丸木舟、古墳時代の^{くわ}鋤、江戸時代の桶などです。

縄文時代・弥生時代・古墳時代の道具というと、土器や石器・鉄器などを思い浮かべる方が多いと思いますが、木製の道具も生活用品として多用されていました。

人々が住んでいた住居跡では柱・^{たるき}垂木・^{はしご}梯子などの建築材に木が使われました。農耕では木製の^{すき}鋤・鋤を使って土地を耕します。水田では足が沈まないよう田下駄を履いて作業しました。馬に馬^ま鋤を付けて田を耕すこともあります。収穫した穀物を臼と杵で脱穀します。火きり臼を使って火を起こし、土器に穀物を入れて調理します。料理は土器や木の器に盛り、匙などを使って食事をします。木枠を据えた井戸からは、^{まげもの}曲物などで水を汲みます。

人々の生活を支える道具として、土器・石器とともに木製品が活躍してきた様子を想像すること



建築材に木が使われます（屋外展示復元住居）

ができます。

木製品には、昔の人々の知恵が詰まっています。道具によって素材となる樹種が使い分けられているのはその一つです。曲物であればスギやヒノキなどの針葉樹を選んでいきます。スギやヒノキは割裂性が大きく、板を剥ぎ取ることが容易なためです。鋤や鋤などの身にはアカガシ亜属やクヌギ節を選んでいきます。農耕に耐えうる硬質性を持っているためです。農具の柄には、身とは反対の比較的折れやすいコナラなどを使い、柄が折れたら差し替えます。身が割れるのを防ぐため、折れやすい木を選んでいるのです。

また、木製品には補修の痕や再利用をした痕跡が見られることがあります。曲物の底板が割れると、木釘や樹皮でとじ合わせて補修します。使わなくなった製品が他の製品に転用されることがあります。住居に使用していた建築材を井戸枠や杭に転用するのはその一例です。修理して長期間にわたって使用し、再利用していくという姿は、現代のリサイクルの姿勢につながるものがあります。

木製品は有機質であることから腐食して残らないことが多々あります。しかし、水分を多く含む土壌の中では現在まで残ることがあり、当時の生活や生業を復元する貴重な資料となります。道具の多様性や人々の知恵を考えながら木製品を見てみると、当時の生活や人々の思いが見えてくるかもしれません。

（学習支援担当 大和田瞳）

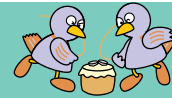


古墳時代から現代まで続く曲物の技術

THE A MUSEUM



歴史と民俗の博物館イベント情報（7月～9月）



埼玉県の
マスコット
コバトン

■ 企画展「あそび漫遊」を、7月16日（土）～8月31日（水）まで開催いたします。

◆ 7月

- 2日（土）博物館裏方探検隊
- 9日（土）ミュージアムトーク・博物館裏方探検隊
- 10日（日）ミュージアムトーク
- 16日（土）企画展「あそび漫遊」オープン
企画展展示解説
特別体験メニュー
「拓本体験と土偶作り」
博物館裏方探検隊
- 18日（月・祝）
特別体験メニュー「越生団扇作り」
- 30日（土）民俗芸能講習会「オカメ・ヒョッココの舞」
博物館裏方探検隊
- 31日（日）企画展展示解説

◆ 8月

- 5日（金）博物館夏まつり「縁日で遊ぼう」
- 6日（土）民俗芸能講習会「オカメ・ヒョッココの舞」
博物館裏方探検隊
- 7日（日）企画展関連事業
「影絵グループ
あけびの会による公演」

- 11日（木）～12日（金）
納涼映画会
- 13日（土）博物館裏方探検隊
- 14日（日）企画展展示解説
- 20日（土）民俗芸能講習会「オカメ・ヒョッココの舞」
博物館裏方探検隊
- 27日（土）民俗芸能講習会「オカメ・ヒョッココの舞」
博物館裏方探検隊
- 28日（日）企画展展示解説
特別体験事業「お雛子体験教室」
- 31日（水）企画展「あそび漫遊」最終日

◆ 9月

- 1日（木）博物館資料特別鑑賞会
- 3日（土）博物館裏方探検隊
- 10日（土）特別体験メニュー「押絵羽子板作り」
博物館裏方探検隊
- 17日（土）ミュージアムトーク・博物館裏方探検隊
- 18日（日）ミュージアムトーク
- 21日（水）特別体験メニュー
「藍の絞り染めストール作り」
- 24日（土）博物館裏方探検隊

予告：特別展「開館40周年記念 円空ところを刻む ー埼玉の諸像を中心にー」

10月8日（土）～11月27日（日）開催

江戸時代の初期、美濃国（現岐阜県）に生まれた円空は全国各地を巡り歩きながら、数多くの仏像や神像を刻みました。本特別展は、当館の開館40周年を記念し、岐阜県や愛知県に次いで数多く確認されている埼玉の円空仏を一堂に会し、円空がこの埼玉の地に残した思いを探ろうとするものです。



40th Anniversary
埼玉県立 歴史と民俗の博物館 (編集発行)
Saitama Prefectural Museum of History and Folklore

〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4丁目219番地
TEL. 048-641-0890 (管理)
048-645-8171 (学芸)
FAX. 048-640-1964
<http://www.saitama-rekimin.spec.ed.jp/>



埼玉県立歴史と民俗の博物館だより
Vol.6-1 (通巻) 第16号
2011年6月30日発行